

# 2019 年度事業報告

# 1. 法人本部

## 1. 事業方針

**経営ビジョン** “100年続く事業体”

**基本理念** ●当事者主体のサービス提供 ●地域社会での自立支援 ●社会(地域)貢献

### 【運営方針】

社会福祉法人の責務を具現化し、地域において必要とされる法人を目指します。

- ・法人本部機能を集積させ、盤石な組織体系の構築を目指します。
- ・地域に貢献できる事業を創造し、地域社会との連携強化に努めていきます。
- ・利用者が必要とする新たな事業に積極的に取り組み、支援の手が届かない方へのサービス供給の仕組みの構築を目指します。
- ・社会福祉法人をはじめとする関係事業体などとの連携を深め、多種多様な社会ニーズに対応できる組織体の構築を目指していきます。

## 2. 事業報告

事業所所在地：東京都新宿区西早稲田3-13-15 FWビル1階

### ○理事会

日時	出席者数	議案
2019年5月29日(水) 招集日：4月18日	理事7名 監事1名 事務局2名	事業報告・決算・評議員招集決議
2019年6月20日(木) 招集日：6月1日	理事8名 監事1名 事務局2名	理事長、業務執行理事の選任
2020年1月18日(土) 招集日：12月20日	理事8名 事務局3名	職務の執行状況報告
2020年3月26日(木) ※理事会の議決があったものとみなされた日 招集日：1月24日	理事8名 監事2名	事業計画・予算・補正予算 ・コロナウイルス感染防止のため、理事全員による書面による意思表示並びに監事による異議なしの確認書により実施

### ○評議員会

日時	出席者数	議案
2019年6月20日(木) 招集日：4月18日	評議員7名 理事5名 事務局2名	事業報告・決算

○評議員選任解任委員会・2019年度の開催はなし

○経営会議・幹部職員コンサルタント・経営計画策定委員会

対象者	回数(年)	内容
あゆみの家幹部・監督職・ 専門職(19名)	11回	社労士によるコンサルティング あゆみの家のビジョン策定・チームビルディング研修等

## ○区内活動

新規事業として、区内作業所ネットワークのしんじゅクオリティみつばちプロジェクトによる養蜂事業を新宿区立障害者福祉センター屋上での実現へ取り組み、年度内に実施。養蜂事業の展望は、自然環境の好循環作用や障害者や高齢者などの多様な雇用形態の創出、子どもたちへの環境や食に対する理解啓発体験や機会の創出などの効果を期待。

名称	回数(年)	備考
新宿区障害者差別解消法職員研修	2回	
新宿区図書館運営委員会	3回	委員
東京2020大会区民会議	3回	
東京2020大会区民会議普及啓発部会	2回	委員
東京2020大会250日前イベント	1回	
新宿区社会福祉協議会評議員会	1回	評議員
新宿区社会福祉協議会施策推進委員会	2回	委員
新宿区内社会福祉法人連絡会(区社協)	2回	
新宿区内社会福祉法人連絡会幹事会(区社協)	5回	代表幹事
新宿区内社会福祉法人連絡会懇談会(区社協)	4回	
新宿CSRネットワーク定例会等参加	5回	
新宿区勤労者・仕事支援センター評議員会	3回	評議員
新宿区勤労者・仕事支援センター養蜂事業準備会議等	8回	
パラスポーツ体験	1回	
ポッチャ体験	4回	
「イキイキ生きる私の大切な権利」の活用検討会	1回	委員3名
知的障害者擬似体験Winds	25回	擬似体験・打合せ
福祉上映会「星に語りて～Starry Sky～」 (新宿区内社会福祉法人連絡会共催)	1回	リハーサル1回
ウォールパズルアート (新宿区内社会福祉法人連絡会共催)	6回	東京2020大会500日前イベント・ 共同バザール・レガス祭・西戸山中学校・ 企業研修
水族館(こども園・幼稚園)	4回	西新宿こども園・淀橋第四幼稚園・ 鶴巻幼稚園2クラス

## ○公益活動

名称	回数(年)	備考
社会福祉法人経営者協議会(都社協)	1回	会員
地域公益活動推進協議会(都社協)	1回	会員
身体障害者部会(都社協)	3回	委員
身体障害者部会調査研修委員会(都社協)	5回	委員
東京都障害者歯科保健推進ワーキンググループ	2回	委員
東京都重度身体障害者グループホーム連絡会 (都内18法人所属)	1回	

## ○事業総括

法人本部での法人全体の業務管理のシステム化に努めました。総務の実務を総合的なネットワークシステムで管理し、事業部ごとに分担されていた総務、財務機能を総合的に管理できるネットワーク機能の強化が図れました。

各事業部との連携や職員同士の連携を円滑に実施するために部長同士、部課長同士でのやりとりをZohoのネットワークシステムを活用した情報共有をしました。メール以外のやりとりがスムーズとなり、早急な問題解決や情報共有につながりました。経営会議での情報共有や業務の方向性の確認のほか、法人ビジョン“100年続く事業体”と理念

を職員全員に浸透させていくために各事業でのビジョンを策定し、事業部ごとの職員がむかうべき方向性を明確にしました。とりわけ職員数が多いあゆみの家では、チームビルディングコンサルティングを監督職と専門職にも拡充し、より効率的にあゆみの家におけるビジョン策定と浸透に努めました。

また、幹部職員の意識統一が図れたことにより、課題解決に向けた検討を深め、今後の対策に丸となって取り組むことができました。課題でもある人材確保と定着、少子高齢化や働き方改革などの社会的な変化に対応するための対策など、取り組むべき課題を明確にし、幹部職同士の対話による解決を導くための工程を確立しました。“チームビルディング”を主眼としたコンサルティングで学んだ重要な3要素である「人材力」、「組織力」、「関係力」を個人個人が発揮する機会となりました。特に日々、現場で起こっている課題に対して表面上だけで解決するのではなく、そこにある構造的な問題解決に取り組むための「関係力」が発揮され、知識と実践を深めました。

人材確保と定着の課題は、身分保障充実を図るため、福祉・介護職員処遇改善加算のレベルを引き上げ、Ⅲを取得しました。福祉・介護職員処遇改善特定加算を取得する体制の整備を進め、2020年度からの取得を目指し、身分保障の充実を図りました。他にも各事業部の充実を図るため、新たな国加算やグループホームにおける体制強化支援加算などの取得にも力を入れ、今後も職員ひとり一人の支援に向き合うモチベーションの向上のため、基盤体制を強化しました。

社会福祉法人の責務である公益事業へ継続的に取り組みました。新宿区内社会福祉法人連絡会の幹事として、区内社会福祉法人が互いの事業の理解を図り、効率的に連携しました。会員を区内に法人本部がある社会福祉法人だけでなく施設や事業所とし、46会員に拡充しました。各法人の事業連携や協力が図れる体制の整備に取り組み、各法人の特性を紹介するハンドブックを作成し、連携を深めました。今後も各法人が取り組んでいる地域公益活動に区内法人連絡会として積極的に参加することとしました。

また、共生社会を目指し、地域の方々の障害理解に関して意識啓発を図るため、様々な啓発活動に取り組みました。商標登録が認められた“ダイバーシティウォールパズルアート”の地域イベントや教育機関、企業の研修カリキュラムとして実施しました。学校関連や企業、民生児童委員や司法書士の方々などに障害理解のための疑似体験講座の実施や福祉上映会などを積極的に実施し、たくさんの方々に理解啓発を促す取り組みを通じて共生社会の実現に向けて新障協が持っている情報や取り組みを共有する機会の創出に努めました。様々な取り組みを実施するにあたっては、地域で活動をしている関係機関やキーパーソンとなる方々との連携が不可欠であるため、多くの地域の関係者や区民が関わりを持てる事業やイベントの検討などを協議し、実践しました。地域の中での社会的な意義を深めていくため、新宿区の東京2020オリンピック・パラリンピック大会の機運醸成に関する補助金を活用した“パラスポーツ体験イベント”を企画し、様々な関係団体と連携して事業実施に努めました。残念ながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止になりましたが、今後も地域に開かれた啓発活動を展開する土壌を構築することができました。

これらの実現には、職員一人ひとりの従来の既存事業や既存制度の枠組みにとらわれない想像力などが十分に発揮されることが必要です。地域主体型事業を实践することは、より区内の事業者や施設、地域住民などとの連携を深める必要があります。新宿における地域福祉課題は多様性を極めてきています。それらの多様なニーズを公益性の高い事業につなげ、他法人や地域との結びつきを強化し、本部並びに各事業拠点がある近隣地域のみならず、新宿区内外、東京都の活動にも積極的に参加し、より広域的な活動展開を目指していきます。「多様性のサービス供給体」と地域の方々に認識され、信頼される法人になり、より社会全体の差別や偏見をなくし、個々の価値観を重視した多様な共生社会の実現をめざし、今後も活動に取り組んでいくこととします。

## 2. 新宿区立障害者福祉センター（指定管理事業）

経営ビジョン “つなぐ・つながる・地域福祉の拠点”

○職員体制・常勤職員 28名・非常勤職員 9名

○各事業報告

1. 機能訓練（機能訓練事業部担当）

・登録者及び利用者総数

※3月末現在

項目	登録者数			新規・終了数		のべ利用者数	1日当たりの利用者数
	男	女	計	新規	終了		
利用者数	50名	26名	76名	6名	6名	2,297名	10.9名(210日)

・相談実績

項目	医師診察	体調確認	救急看護	内服等	経口摂取指導	安静臥床
実績数(件)	91	2,486	1	1,177	5	8
項目	トイレケア	看護訪問	面接 (SS利用相談含)	グループ訓練	館外訓練	合計
実績数(件)	90	4	460	24	48	4,394

・補足 相談実績以外の実働実績

理学療法(PT)	1,269	外出訓練：公共交通、屋外歩行練習	97
作業療法(OT) ・個別訓練 ・グループ訓練(書道)	1,269 91	福祉用具 ・補装具、靴、杖、車いす、自助具等の 相談・作成、関連機関調整	450
言語聴覚療法(ST) ・個別訓練 ・グループ訓練	631 396	生活支援 ・代読代筆、公共機関同行、入浴、食事評価、 身体状況の情報提供、就労等	319
リハビリ相談、関連機関調整	48	生活機能低下予防評価(E-SAS)	30

2. 多機能型事業（あすなろ作業所及びトライ工房）

経営ビジョン “惹き合う・惹かれ合う事業所”

・通所者状況 ※高齢者サービス(デイサービス)併用者は各1名ずつ。

項目	あすなろ作業所		新宿トライ工房		
	男女比	男:5名 女:8名	男:7名 女:4名		
10~30代		2	0	2	1
40~50代(シニア世代)		3	7	2	3
60以上(シルバー世代)		0	1	3	0

・活動実績

作業内容	日数(日)		人数(名)		参加人数(名/日)	
	あすなろ	トライ	あすなろ	トライ	あすなろ	トライ
① 自主製品・創作等	702	66	2176	499	3,1	7,5
② 授産活動/緑化事業	236	204	505	361	2,1	1,7
③ 自己啓発/余暇活動	393	397	1077	1996	2,7	5
④ 就労体験等	280	120	355	129	1,3	1

⑤ 社会参加活動等	162	13	38	69	4,3	5,3
⑥ 健康管理等	232	261	356	780	1,5	2,9
⑦ 車イス体験等	—	31	—	126	—	4

### 3. 視覚障害者通所訓練(視覚障害者通所訓練事業部担当)

#### ・利用者数

患者内訳		のべ出勤者数	合計		1日当たりの利用者数
障害者	新患数		実施日数	利用者数	
112名	21名	435名	264日	527名	1.99名

### 4. 手話講習会

#### ・受講者数

コース名	定員	応募者数	受講者数	のべ参加者数	修了者数	修了率
初級	40	31	28	1,124	16	48%
中級	40	36	29	1,099	23	79%
上級	20	13	12	459	11	91%
通訳	10	9	6	695	5	83%
補講	10	4	4	122	4	100%

### 5. 計画相談及び基本相談支援事業

・契約数:90名(知的障害:45名・身体障害:31名・身体+知的障害:9名・知的+精神障害:4名・3障害重複:1名)

・所属内訳:(通所先又は勤務先あり:74名・在宅:16名)

重点的な取り組み	達成度・成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>既存サービスだけでは地域生活を維持することが難しい制度の狭間の方々</li> <li>ご本人及びご家族の高齢化、また障害重度化に伴い、自宅での生活を維持が難しくなっている方々。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立支援協議会で相談支援専門員の課題を共有し、新宿区の課題として共有。また、「地域生活支援拠点」である当センターで日中の活動場所を探している方を中心に声をかけ、音楽セラピーを月2回、年24回定期開催。参加者がセンター講座に繋がる事例もあり、利用者だけでなく区からも好評を得た。</li> <li>相談員の専門性向上のために相談員1名が厚労省の定める強度行動障害支援者養成研修(実践研修)を受講して修了しました。さらに生活介護事業所やご家族の元で行動障害のために地域生活が困難になっている方々の支援内容の見直しを医療職や支援者、ご家族と協力しながら行いました。</li> </ul>

### 6. 講座・講習会事業

#### ・講座の実績

開設講座:23	定員:401名	受講者数: 378名	実施回数:385回	延べ人数:3,155名	1回あたりの参加者数 184.8名
---------	---------	---------------	-----------	-------------	----------------------

#### ・講演会・行事

実施日	テーマ・講師	参加者
10月27日	センター祭	2,500名
1月20日	ウクレレれい氏 ウクレレひきがたり♪「きみにファイト」	92名
3月7日	講座体験会(感染症対策のため中止)	

### 7. 高次脳機能障害者支援事業(障害者在宅支援事業部担当)

・利用者7名(新規利用1名、年間の参加延べ者数263人)

### 8. 入浴サービス

#### ・事業実績

	利用者数	実施日数	延べ利用者数	1日当たり
入浴サービス	2名(男性1名・女性1名)	95日	95名	1.00名

## 9. 給食サービス

### ・事業実績

	利用者数	実施日数	延べ利用者数	1日当たり
給食サービス	17名(男性8名、女性9名)	234日	592名	2.52名

## 10. 短期入所事業(短期入所及び日中ショート)

### ・利用実績

契約者数 107名 (新規11名、終了28名)	延べ利用者数			利用日数 633日	緊急利用 7日
	男 143名	女 160名	合計 303名		

※日中一時支援の利用者数:36名(延べ110日)

## 11. 障害者相談支援事業

### ・相談実績

#### ① 相談者

	当事者	家族	関係機関	その他	合計
一般相談	863	36	38	8	945
ピアカウンセリング	180	147	6	11	344

#### ② 障害の種類

	肢体	視覚	聴覚	内部	重心	知的	精神	発達	高次能	その他
一般相談	87	9	5	4	1	55	734	10	29	11
ピアカン	36	60	35	0	0	131	82	0	0	0

#### ③ 相談内容(一般相談)

一般相談		ピアカン相談
相談項目	件数	件数
情報提供、福祉サービス利用援助	121	126
障害や病状に関する支援	7	8
健康・医療に関する支援	9	16
不安の解消・情緒安定に関する支援	777	128
保育・教育・療育に関する支援	0	3
家族・人間関係に関する支援	6	34
家計・経済(年金・手当等)に関する支援	4	3
生活(金銭・家事・育児等)に関する支援	3	3
就労に関する支援	5	4
社会参加・余暇活動等に関する支援	6	7
権利擁護に関する支援	1	1
その他	6	11
合計	945	344

### ・講演会

実施日	テーマ	参加者
5月13日	医療的ケアがあっても安心して暮りたい ～もみじの家が目指す社会～ 講師:内田勝康氏(国立成育医療研究センター・もみじの家ハウスマネージャー)	85名

1月21日	障害のある方が、地域で暮らせる支援体制 講師：福岡寿氏（日本相談員支援専門員協会顧問）	44名
-------	--	-----

## 12. 居住サポート事業

・利用実績：一般相談を含む

## 13. 社会資源活用促進事業

・利用実績

実施内容	依頼先、紹介先	人数等
ボランティア	学生・社会人等一般	年間延べ人数 271名
	ボランティアセンターの紹介	年間延べ人数 29名
介護等体験	区立中学校	2校、3日間、各1名
	大学	2大学、4名
資格取得の実習	大学、専門学校	大学（作業療法士、社会福祉士等）1校、4名
見学・視察	障害者福祉課	4/5 5名
	国内の大学	2大学、17名
	区立小学校	1校、16名（小学3年生）
	海外の福祉施設	2施設、33名

・センター主催の地域交流事業

サロンプロジェクト 「かけはしカフェ」	協力：スターバックスコーヒー、 宝塚大学、東戸山学童クラブ	2019年8月9日 実施 来場者：90人
「ふしぎな友達 プロジェクト」	協力：プロダンサー ひびきみか	2019年11月30日 実施 参加者：80名
第3回「ゆる〜く ポッチャ大会」	協力：新宿区スポーツ推進員、新宿区役 所オリパラプロジェクト、若松地区 民生児童委員協議会	2019年9月7日実施・参加者：90名（29チーム） 運営スタッフ：25名
バリアフリー映画会	協力：（NPO）ピーマップ	感染症対策のため休止

## 14. 管理業務等

・施設貸出業務実績

※（ ）内はのべ利用団体数

	障害者団体	一般団体	区関係
会議室(3室)	8,259(555)	447(37)	182(8)
調理実習室	2,300(106)	152(7)	20(2)
創作活動室	1,162(113)	96(14)	15(1)
録音室	1,433(231)	12(2)	0(0)
多目的ホール	1,107(60)	164(12)	0(0)
パソコンルーム	2,039(279)	0(0)	0(0)
計	16,300(1,344)	871(72)	217(11)

※パソコンルームの個人使用実績（年間、延べ228名）は上記実績数に含まない。

・福祉サービス第三者評価及び利用者満足度調査

(1) 利用者満足度調査 ・実施時期：2019年2月1日～3月10日・回答者：配布110名、回収78名（回収率71%）

・調査項目：①基本情報：性別、年齢、所属、②職員の接遇や仕事：4項目、③設備や貸出備品：4項目、④権利擁護や苦情対応：3項目、⑤地域交流や広報活動：5項目、⑥自由記述

・主な結果：高い評価は、職員の接遇や電話対応、仕事ぶりで3項目が90～96%の満足の回答。  
低い評価は、設備や備品に関することで使いやすさや不良状態に対する改善の要望。



(2) 福祉サービス第三者評価 ・実施時期: 契約日2019年9月1日～完了日2020年3月25日

- ・対象事業: 多機能型事業、短期入所
- ・評価項目: 利用者調査 「利用中の生活、設備について」「職員の接遇・態度、信頼関係」など  
事業所自己評価、訪問調査 「組織マネジメント」「サービス提供のプロセス」など
- ・主な結果: 高い評価は、「センター内・外の各種社会資源を活用して経験を積むことが出来るような支援の提供」や「利用者主体の会議を通じて自由に意見を交換し思いを伝えあっている」など  
指摘は、「危機管理体制の一環として、事業継続計画(BCP)の作成及び具体化に向けた取り組みの推進」や「利用者・家族の高齢化に向けて介護量増加への対応や地域生活継続のための取り組みや検討」

・衛生委員会

	内容
設置目的	労働安全衛生法の定める設置基準に該当するため、労働災害の防止及び職員のメンタルヘルスや健康管理に努める責務があるため。
委員構成	6名(委員長:館長、衛生管理者、看護師、副館長、多機能型事業所長、産業医)
開催数	毎月1回、午後1時30分から
実施内容	主な検討事項等 ・時間外労働や有給休暇、傷病休暇の取得状況・メンタルヘルスやハラスメント、労働負荷や労働環境に関する相談事例や支援体制・職員の健康診断及びストレスチェックの実施・産業医による個別相談や職場巡回による検証・労働災害や介護事故、ヒヤリハットの検証など
結果報告	・ストレスチェックの結果で産業医の面談の必要なレベルの高ストレス者はなし。 ・委員会で取り上げた検証事例による産業医からの注意勧告や改善指導の事例もなし。

・感染症対策(新型コロナウイルス対応)

○衛生委員会及び監督職によるセンター事務局で対応方針や職員への周知について協議して対応。3法人、3事業部の責任者で構成されるセンター事業部会で情報共有を図り、館全体で統一的な取り組みを進めるよう留意。

⇒○初期対応:①不特定多数の来場を想定した催事の中止、②入館時の手洗いや消毒の資材の配備と勧奨、③感染症の発生原因や感染経路に関する啓蒙。○中間期対応:①会議室の貸出休止、②講座講習会の休止、③喫茶ふれんどの臨時休業、④電車通勤の職員の時差通勤、⑤小学校、保育園の休校、休園にともなう特別休暇の導入。○緊急事態宣言後:①開館時間の短縮、②通所施設における利用者保護のための外出自粛のお願い、③感染者発生の場合の措置に関する検討と情報共有。

・避難訓練他 防災関連:避難訓練:消防計画に基づき年2回実施。

・備蓄物資

新宿区より、160名の3日分、480名分として白米等の備蓄物資の補充を受け、備蓄倉庫に保管。

物品名	数量	物品名	数量
アルファ化米(白米)	480	ビスケット	480
ミネラルウォーター	480	缶入りパン	480

1日の収容予想人数×3日分の数量、B1Fの区備蓄倉庫の一部を借用して保管中

① 備蓄備品

物品名	数量	期限	物品名	数量	期限
スーパー保存水	480	2022.6	缶入りパン	480	2022.3
アルファ化米	480	2023.9	ビスケット	480	2020.10
食料については1日の収容予想人数(160人)×3日分の数量です。					
簡易トイレ	160	—	ボディタオル	160	2023.3
トイレトペーパー	16	—	乾電池(単一)	64	—
担架ベッド	3	—	発電機	2	—

赤外線暖房機	1	—			
紙コップ	300	—	体拭きタオル	60	—
紙ボウル	300	—	簡易ベット	2	—
割箸	300	—	飲料水	30	2022.3
やかん	2	—	カセットコンロ	2	—
単一電池	50	2027.2	ランタン	7	—
単四電池	52	2027.2	圧縮タオル	70	—
ガスボンベ	30	—	災害用カーペット	5	—
簡易トイレ	3	—	お粥	200	2022.7
紙おむつS・M・L	174	—			

## ② その他備品

物品名	数量	設置場所
担架	1	1F受付
車いす	4(1F 3台/2F 1台)	1F受付、2F(PC室、創作活動室)
AED	1	2F事務室
アンビューバック	1	2F事務室

## 3. 新宿区立あゆみの家(指定管理事業)

### 経営ビジョン “垣根のないチーム”

#### 1. 運営の基本方針

##### (1) 重症心身障害者通所事業開始及び生活介護事業定員増加に向けての準備を行います。

改修工事は、仮施設移転も含め約4ヶ月かけて実施しました。区所管課・工事業者・保護者・近隣住民等事前打ち合わせや丁寧な説明を行い、利用者への影響もなく終了し、その後新グループの為の備品購入や所内、室内環境の整備等も行いました。新規事業や定員拡充への取り組みについて、新グループ編成を夏までに終え、その後プログラムの検討に移りました。入浴や外出・日常のプログラムについて等考え方の整理、最大の懸案事項だった合宿についても、医療的ケア利用者への合理的配慮の観点から、医療的ケア要綱の改正や実施場所・方法等の計画を作成しました。

##### (2) 新規入所者の円滑な受け入れを図ります。

4月には3名の新規入所者を各グループで担当者を中心に丁寧な受け入れを行いました。5月には区内転居による入所者もあり、以前の通所先への見学や資料閲覧等連携を取りながら受け入れを行いました。

##### (3) 利用者・保護者・職員が情報共有し協力し合う「垣根のないチーム」づくりを行います。

「垣根の無いチーム」作りとして、3年前から行っているチームビルディングコンサルティングを監督職・看護師・管理職で毎月1回実施し、「やりがい」「働きやすい職場」「人間関係」等、色々な課題でのグループワークを通して、あゆみの家の行動指針を作成しました。個人特性を認め合う事や情報共有の必要性等を盛り込みました。

#### 2. 生活介護事業

・利用者と通所率・2020年3月末現在の利用者数:48名(定員45名) 障害程度区分:各年度3月31日現在

	区分6	区分5	区分4	合計
2016年度	29名(74%)	5名(13%)	5名(13%)	39名

2017年度	30名(73%)	7名(17%)	4名(10%)	41名
2018年度	36名(80%)	6名(13%)	3名(7%)	45名
2019年度	38名(80%)	5名(10%)	5名(10%)	48名

・利用者の通所率(年間平均)

2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
88%	87%	89%	89%

・欠席者の理由(延人数) 計1,381名 ※昨年度は欠席者延べ人数 1,283名

欠席理由	欠席者の延人数	備考
①病気、発作、通院、入院	567名(41.1%)	
②介護者や家庭の事情	392名(28.3%)	介護者の病気、冠婚葬祭、旅行等
③他施設のサービス利用	420名(30.4%)	言語訓練、短期入所
④その他	2名(0.1%)	

・日中活動のプログラム例と目的

目的	プログラム例
生活の基盤となる働くこと、食べることを経験する	キャンドル作り、リサイクル活動、調理
個性や適性を生かす	個別活動、各グループの活動
生活の幅を広げ、コミュニケーションを深める	誕生会、節分やクリスマスなど四季の行事
様々な方法で自分を表現する	手刷り暦、音楽療法
健康、体力の保持、増進に努める	理学療法、作業療法、足浴

・週間プログラムの例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	朝の会・運動 手刷り暦・創作	朝の会・運動 交流タイム	朝の会・運動・感覚運動 散歩エステ・MT等		朝の会・運動・調理 グループタイム
午後	ふれあい体操 個別活動	運動 個別活動	ふれあい体操 個別活動	運動 個別活動	ふれあい体操 個別活動

個別支援として理学療法士・作業療法士による専門的な支援を実施。

- ・ICT 機器の取り組み: あゆみの家での本格活用を目指してプロジェクトを立ち上げ、前半は職員の研修や必要機材の購入を進め、年度後半より、利用者との試行を始めました。視線入力装置やタブレット端末等に、利用者・職員共にまず慣れるところを重点に取り組みました。

・年間行事

4月	入所式、始所式(新規入所者3名)	11月	改修工事のため仮移転
6月	所内宿泊(新規入所者3名)	12月	障害者作品展、手づくりマーケット
7月	プロ美容師ヘアカットサービス(山野愛子美容室) あゆみカフェ(新宿社協、株式会社スターバックス)	1月	あゆみの家での通所再開 成人を祝う会
10月～	改修工事開始～改修工事終了2月	3月	東京都重症心身障害者通所事業5グループ化への準備

### 3. 入浴、給食、送迎サービス

#### (1) 入浴サービス

利用者の体調変化に留意し、本人の健康や清潔を維持するために入浴前には毎回、看護師によるバイタルチェックを行いました。利用希望者に対して1日の利用人数は7名以内で実施しました。仮移転期間休止。

	2017年度	2018年度	2019年度
--	--------	--------	--------

入浴サービスの年間延べ人数	1048名	998名	964名
入浴サービスの月平均延べ人数	87名	83名	87名 ※

※2019年度の月平均延べ人数は、仮移転の12月を除き、11ヶ月で除した数値

## (2) 給食サービス

給食担当者会議や食形態調査や食物アレルギー調査、毎日の検食を実施しました。食材は、誤嚥しやすい材料は使用せず、代替食品で調理しました。利用者の摂食状態に応じて普通食、きざみ食、みじん食、ムース食、ペースト食、5種類の食形態で提供しました。年4回の選択食を取り入れ、和・洋・中と好みのメニューによって楽しめるようにし、“世界のグルメ”と銘打って特別メニューも実施しました。仮移転期間は、配送弁当を利用（人数に含）。

	2017年度	2018年度	2019年度
給食サービスの年間延べ人数	7,836名	8,796名	8,936名
給食サービスの月平均延べ人数	653名	732名	745名

## (3) 通所バスの運行による送迎サービス

利用者の送迎は、大型の通所バス6台、リフト付福祉車両（ハンディキャブ）2台により送迎を行いました。

## 4. 短期入所事業及び日中ショートステイ事業

### ●短期入所の年間宿泊数の推移：計257泊

(単位：泊)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
合計	23	24	18	27	25	21	24	21	18	17	22	17

※参考：2016年度は214泊、2017年度は225泊、2018年度は250泊

### ●日中ショートの利用者延べ人数：計34名

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用数	0	3	2	4	7	2	2	3	2	2	2	5

※参考：2016年度は106名、2017年度101名、2018年度94名

## 5. 土曜ケアサポート事業

### ●利用登録者

2020年3月現在

	あゆみの家の登録者	あゆみの家以外の登録	合計	うち医療的ケア対象者
合計	39名	31名	70名	9名

※参考：2018年度の登録者の合計人数は64名（うち医療的ケア対象者は5名）

### ●利用者数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
実施回数	4回	3回	5回	4回	4回	4回	3回
利用人数	107名	84名	140名	103名	106名	113名	72名
1回あたり	27名	28名	28名	26名	27名	28名	24名
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
実施回数	2回	0回	3回	5回	0回	37回	
利用人数	47名	0名	75名	128名	0名	975名	
1回あたり	24名	0名	25名	26名	0名	10ヶ月平均：26名	

※参考：2017年度は、実施回数46回、利用人数1,212回、1回あたり26名

2018年度は、実施回数45回、利用人数1,161回、1回あたり26名

## 6. 利用者への個別支援

### ●医療的ケア

2019年 4月 1日:利用登録者13名:2020年 3月31日:利用登録者12名

生活介護事業における医療的ケアの種類と提供件数は以下の通り。(単位:回)

内容		登録者	年間提供数	月平均	過去実績(月平均)		
				2019年度	2018年度	2017年度	2016年度
吸引	口腔	8名	2,599	217	240	309	155
	鼻腔	7名	1,160	97	99	156	101
	気管	3名	3,351	279	413	359	135
経管栄養	経鼻	1名	209	17	0	0	0
	胃ろう	7名	911	76	74	70	47
吸入		6名	959	80	122	95	95
気管の衛生管理		3名	279	23	24	24	24
導尿		1名	240	20	20	20	20
人工呼吸器の管理		1名	157	133	13	24	24
酸素の管理		1名	94	8	8	17	17
呼吸リハビリ		0名	0	0	0	0	0
その他(留置カテーテル)		1名	362	30	20	0	0
月平均の合計				860	1,033	1,074	618

※1名が経鼻経管より胃ろうへ年度途中に変更。 ※医療的ケアの利用登録者1名が年度途中で退所。

※認定喀痰吸引については、マニュアルの整備や医師の指示書等必要書類を整え、10名の職員が実施可能となりました。実績は、3号取得者2名がそれぞれ経管栄養3回。1号取得者1名が4名の利用者に、吸引・経管栄養を合わせて、60回の実施でした。また、3号研修を受験し筆記試験合格者は2名でした。

### ●緊急時薬の使用状況

緊急時薬を預かっている利用者	14名
緊急時薬の使用回数	2回

※参考:2016年度の使用回数21回、2017年度は17回、2018年度は17回

## 7. 計画相談事業(サービス等利用計画の作成)

2020年3月末現在の事業実施状況は以下のとおりです。

		事業実績		
利用契約	あゆみの家の利用者の契約:48名中45名と契約 (H31.4からの新規利用者3名含む)			
	あゆみの家以外の方の契約:18名			
計画の作成	2019年度の件数:25件(うち新規契約4名、既契約21名)			
モニタリング	3月末モニタリング実施済み件数:75件			
	2017年度実績	2018年度実績	2019年度実績	
計画作成	28件	33件	25件	
モニタリング	80件	71件	75件	
研修、情報交換会参加	30回	9回	28回	

## 8. 利用者主体の施設運営を進める取り組み

- 利用満足度調査の実施・実施時期：2020年2月・回答率：配布48名、回収40名（回収率83%）
  - ・調査内容：24項目の質問と自由記述。「たいへん満足」「満足」「普通かな」「どちらかといえば不満」「とても不満」「非該当またはわからない」の6段階評価です。利用満足度調査以外で気になること12項目。

◆実施状況についての質問

この調査の回答方法についてお答え下さい。

1. 本人または本人の意思を聞き取り、介助者が記入 : 14%
2. 本人が家族や介助者と相談しながら回答 : 3%
3. 家族が本人の気持ちを推察して回答 : 84%
4. その他 : 0%

◆満足度（たいへん満足）が高かった項目

- 第1位：給食サービスによる食事について : 昨年度 55%、今年度 48%
- 第2位：通所バスによる送迎サービスについて : 昨年度 52%、今年度 45%

◆満足度（たいへん満足+満足）が高かった項目

- 第1位：「通所バスによる送迎サービスについて」 : 昨年度 85%、今年度 88%
- 第2位：「職員の支援に関する説明や報告について」 : 昨年度 86%、今年度 84%
- 第3位：「給食サービスによる食事について」 : 昨年度 79%、今年度 80%
- 第4位：「あゆみの活動・サービス全般について」 : (今年度初の質問)77%
- 第4位：「個別支援計画について」 : 昨年度 79%、今年度 77%
- 第6位：「職員に対する要望や意見の言いやすさについて」 : 昨年度 74%、今年度 76%
- 第7位：「定期検診や医療的ケアなどの健康サポート面について」 : 昨年度 79%、今年度 70%
- 第8位：「計画相談支援事業について」 : 昨年度 65%、今年度 69%
- 第9位：「職員の介護や支援の習熟度について」 : 昨年度 76%、今年度 69%

※「とても満足度+どちらかといえば満足」の合計が70%以上は、24項目中で7項目ありました。

○「ずっと通いたい（通わせたい）と思っている。」「とてもあてはまる」「あてはまる」：昨年度 88%、今年度 93%

◆不満度（とても不満+どちらかといえば不満）が高かった項目

- 第1位：「土曜ケアサポート事業について」 : 昨年度 19%、今年度 13%
- 第2位「保護者会の回数・内容等について」 : 昨年度 16%、今年度 13%
- 第3位「施設内の機器や備品の充足度や施設の使い勝手について」 : 昨年度 5%、今年度 11%

⇒いずれの質問でも、満足とそうでない方の意見が分かれた結果になりました。

○気になる調査に関する集計結果の特徴

◆（とてもあてはまる+少しあてはまる）が多かったもの

- 「医療（病院・訪問診療等）によるサポートは十分出来ている。」 : (今年度初の質問)84%
  - ⇒約 8 割強の方が、医療的なサポートは受けられて、不安は無い様でした。一方で、約 1 割強の方は、逆に不安であると考えられる結果となりました。
- 「親亡き後に本人の支援を誰が行うかを考えるととても不安」 : 昨年度 74%、今年度 63%
  - ⇒約 6 割の方が、親亡き後の本人支援に大きな不安を感じていました。一方で、約 3 割の方がまだそこまでは思っていないことがわかりました。

◆気になる調査（あまりあてはまらない+あてはまらない）が多かった項目

- 「介護の事で困った時にどこへ相談したら良いかわからない。」 : 昨年度 57%、今年度 71%
  - ⇒約 7 割の方は、介護についての相談先を確保している様ですが、約3割の方は不安を抱いている結果となりました。これは昨年に比べて、1 割程減りました。

9. 地域、ボランティア、行政との協力と連携の取り組み

(1) 地域における障害者理解の促進の取組み3つの取組み。

- ① 広報紙「あゆみだより」を800部、2回発行して関係機関や地域の諸団体に配布。

- ② 行政や地域福祉関係者の施設見学や福祉系専門学校、大学の研修生の受入れ。  
 ③ 約5ヶ月間にわたる改修工事。(東京都、新宿区、近隣住民等の協力を得て、無事終了。)あゆみ祭は中止。

(2) ボランティアの育成

日中活動ボランティアと行事ボランティアは、活動の継続性や定着率が向上。日中活動ボランティアは、新宿区社会福祉協議会から紹介された、読み聴かせ、書道の講師として毎月1回実施。大学生の福祉系サークル活動が継続。

(3) 新宿区との連携

区主催相談事業者連絡会、施設連絡会や進路対策連絡会、虐待防止の研修会、福祉施設職員相互研修等に積極的に参加。2020年度からの重度心身障害者通所事業および定員の拡充の改修工事に関する所管課打ち合わせ。

## 10. 職員配置、人材育成

### ●職員配置(令和2年3月31日現在)

	職種	人数	常勤	非常勤	備考
運営係・総務、庶務 ・施設管理 ・経理	施設長(所長)	1	1	0	・副施設長は、サービス管理責任者を兼務
	総務	3	2	1	
	サービス管理責任者	1	1	0	
支援係・生活介護 ・短期入所 ・日中ショート ・土曜ケア ・相談支援	生活支援員	41	32	9	・他に嘱託医3名
	看護師	4	4	0	
	相談支援員	2	1	1	
	理学療法士	1	1	0	
	作業療法士	2	0	2	
	バス添乗員	7	0	7	
	合計	62	42	20	

### ●職員研修:2019年度の主な研修の受講実績は以下のとおり。

	研修名	実施月	受講者
内部研修	新宿区喀痰吸引研修(第三号研修)	第1回	支援員・看護師等:25名
		第2回	支援員・看護師等:25名
		第3回	支援員:3名
		第4回	支援員・看護師等:25名
		第5回	支援員:4名
		第6回	支援員:4名
		第7回	支援員・看護師等:12名
		第8回	2名(筆記試験)
	障害平等研修	6月	支援員・看護師等:26名
	てんかん研修	6月	支援員・看護師等:25名
	緊急時対応(カニューレ抜去)	8月	支援員・看護師:4名、
	摂食・嚥下研修	8月	支援員・看護師等:24名
	重度心身障害者コミュニケーション研修	10月	支援員・看護師等:30名
	障害者福祉システム説明会	1月	運営・支援員・看護師:20名
アロマセラピー研修	1月	支援員・看護師:25名	
マッスルスーツ試着会	2月	受講者:職員等:15名	

	救急法研修 (AED 等)	2 月	支援員・看護師等:21 名
外部研修	新宿区専門性向上研修 (セルフケアのアロマテラピー)	4 月	支援員:2 名
	重症障害児(者)療育職員講習会 (重症心身障害児者の療育)	5 月 28 日~31 日	支援員:2 名
	福祉従事者研修 I (チーム作り)	5 月	支援員:2 名
	東京都障害者通所活動施設研修 (第 1 回:合理的配慮について)	6 月	サービス管理責任者、 支援員:1 名
	新宿区専門性向上研修アドラー心理学)	6 月	支援員:1 名
	新宿区職員相互研修(他施設実習)	7 月 3,4,11, 17,18,19, 24,25,31 日	支援員:12 名
	・コミュニケーションを支える ・意思伝達を支える ・見えない、見えづらさを支える	7 月 5,12 日	支援員:1 名
		7 月	支援員:1 名
		9 月	支援員:1 名
	・理解、認知、記憶を支える	9 月	支援員:1 名
	福祉従事者研修4 (チーム作りの視点と手法を学ぶ)	7 月	支援員:1 名
	自立支援協議会セミナー (地域生活)	7 月	所長
	新宿区医療的ケア支援体制事業研修会 (第三号第5回)	8 月	支援員:10 名
	東京都障害者通所活動施設職員研修会 (第 3 回:支援の視点)	9 月	支援者:1 名
	東社協、都通研合同学習会 (医療的ケアの実践と課題)	12 月	サービス管理責任者、 支援員:1 名
	摂食・嚥下指導講習会 [摂食・嚥下指導 (基礎・実習)]	12 月 18.19 日	支援員:2 名
	新宿区専門性向上研修 (薬物療法)	12 月	サービス管理責任者
	フットワーク勉強会 (自閉症への支援)	12 月	支援員:4 名
	東京都ナースプラザ研修 (医療訴訟と看護記録)	1 月	看護師:1 名
東京都障害者通所活動施設職員研修会 (個別支援計画を再考)	1 月	相談支援専門員	
障害者センター講演会 (地域の支援体制)	1 月	相談支援支援専門員	

## 11. 危機管理体制

### ●大震災に備えた取組みと避難訓練

避難訓練等の強化に関しては、施設全体の防災訓練を利用者参加にて年6回実施。その他に、消防署員による AED 訓練、所内の避難訓練、スプリンクラーの対応方法の研修を実施。



## 4. 福祉ホーム「あじさいホーム」(地域総括型事業)

### 経営ビジョン ●地域総括型事業統一

“利用者と共に太陽のもとへ出よう ～継続的な在宅支援・通所支援～”

#### 【運営方針】

入居者一人ひとりに必要な福祉、医療のサービスを継続的に提供し、生活全般にわたる支援を行い、笑顔絶えない生活環境を目指します。

- ・入居者の高齢化、障害の重度化に伴うサービスを適正に判断し、提供していきます。
- ・自らが選択する生活を営むための情報を提供し、生活全般にわたる支援を行います。
- ・入居者同士が関わる機会を増やし、アットホームな関係構築を支援します。
- ・状況に合わせて、自ら考え行動できるケア人材の育成に努めます。

事業名 : あじさいホーム: 事業種別 : 福祉ホーム: 定員 : 10名:

所在地 : 東京都新宿区西早稲田1-11-10

#### ●運営費

障害者総合支援法の地域生活支援事業に該当。全額新宿区からの補助金年額15,255,000円。

職員配置 : 職員配置は以下のとおりです。

職種	常勤(人)	非常勤(人)	合計員数	資格等
施設長	1		1	介護福祉士
生活支援員	1		1	
生活支援員		数名	常勤換算1以上	

#### ●借入金の償還

独立行政法人福祉医療機構に、貸付元金1,840千円、利息44,794円(利子は、東京都(東京都福祉保健財団)によって利子補給)。東京厚生信用組合に、元金3,145千円、利子76千円を償還。

#### ●研修等

	日程	テーマ	参加人数
①	6月6日	てんかんの基礎知識と介助のコツ 新宿神経クリニック 渡辺雅子先生	26名
②	6月17日	虐待防止研修 桜美林大学 准教授 谷内孝行先生	26名
③	10月7日	医療基礎知識研修「嚥下・感染症」 フジモト新宿クリニック 栗原 亜紀先生	20名
④	11月6日	歯科医師から学ぶ口腔の基礎知識 東京都口腔保健センター 壺岐千尋先生	18名
⑤	11月14日	コミュニケーション技術研修 インリアルアプローチ 帝京科学大学 特任教授 田口 直子先生	22名

⑥	12月20日	障害理解研修 『強度行動障害・自閉症について』 NPO法人 クローバー 事務局長 藤井 亘先生	30名
⑦	1月17日	緊急時の対応・AED 牛込消防署員	27名
⑧	2月18日	メンタルヘルス研修・セルフケア 『アサーションについて』 東京産業保健総合支援センター 山口尚子先生	25名
	5月24日	ヨガレッスン 「ヨガで骨力UP～太陽ヨガ～」 西村公美恵先生	11名
	9月10日	ヨガレッスン 「暗闇ヨガ」 西村公美恵先生	17名
	2月25日	ヨガレッスン 『頑張った自分へのご褒美ヨガ』 西村公美恵先生	17名

※あじさい、ひまわり、ぼけっと、からふる、ぱれっと、ルクールと共同開催

※利用者の高齢化と障害の重度化に伴い、緊急時の迅速な対応や職員の知識と技術の向上のため、すべての地域総括型事業所に所属する常勤職員は上級救急講習を受講し、上級救命技能認定証取得。

	回数	内容
入居者運営委員会	11	生活についての見直し・イベントの企画など
父母懇談会	9	生活の様子の報告・イベント報告・個別相談など

## ●入居者へのサービス向上について

### (1) 余暇の充実

	回数	内容
イベント	6	クリスマス会・調理食事会 など
年間外出	4	数名に別れてのグループ外出
地域行事への参加	14	桜祭・地区防災訓練・各福祉施設祭・ パラリンピックスポーツ体験・多文化共生ボッチャ

### (2) 地域交流等

町会に所属しており、地域で開催される催しに参加しました。地域防災訓練に町会の一員として入居者が参加しました。防災訓練は、ホーム入居者の安全を確保するため、所轄消防署の指導監督の下、ホーム消防計画に基づいて年2回程度避難訓練を実施しました。(勉強会:1月17日6名・避難訓練9月13日16名)大規模自然災害に備え、エレベーター停止時の非常階段からの介助用担架を利用した緊急搬送を実施しました。緊急時の対応についてもシミュレーションを実施し、設置しているAEDの活用や緊急時の対応において支援者が戸惑いなく、対応できるよう、日常的に様々な事態に想定した準備を心がけました。

## 5. 福祉ホーム「ひまわりホーム」(地域総括型事業)

### 【運営方針】

入居者一人ひとりが毎日を健康に過ごし、多様な選択肢の中で、社会参加できる喜びを常に持ち続けられるよう生活全般にわたって支援します。

- ・一人ひとりの入居者が、健康で文化的な生活を送る事が出来るよう支援します。
- ・恒常的な支援の中でも日々の変化を見逃さず、一人一人の可能性を引き出していく支援を心がけます。
- ・継続的に日中活動に参加できるよう、通所先や医療機関と連携を強化します。
- ・加齢に伴う障害状況の変化も含め、常に入居者の真のニーズをとらえ続け、選択肢を広げる支援を心がけます。

事業名 : ひまわりホーム: 実施事業 : 福祉ホーム: 定員 : 10名

所在地 : 東京都新宿区西新宿4-21-19

### ●運営費

障害者総合支援法の地域生活支援事業に該当。全額新宿区からの補助金年額15,255,000円。

職員配置: 職員配置は以下のとおり。

職種	常勤(人)	非常勤(人)	合計員数	資格等
施設長	1		1	介護福祉士・ 社会福祉士
生活支援員	2(兼務)		2	
生活支援員		数名	常勤換算1以上	

### ●健康管理

月二回地域の訪問医療(フジモト新宿クリニック)を活用し、定期的な健康管理に努めました。バイタルチェックや日常で気付いた様々な変化も定期報告し、入居者の状態をドクターと共有、病気の早期発見や日々の体調管理に努めました。訪問歯科(三浦歯科クリニック)も活用し、口腔ケア、口腔内の異常発見から在宅治療、専門通院治療の判断など具体的な行動に移しました。医療的ケアが必要な入居者は、新宿区医療的ケア体制支援事業の往診医や訪問看護ステーションと連携し、質の高い医療的ケアを実施できる体制を整備しました。支援者も知識、技術を習得する場として、医療的ケア3号研修へ参加しました。関係事業者間で十分な医療情報の共有が図られるよう、適宜、支援担当者会議を実施しました。入居者の健康面などを考慮し、法人全体で感染症の流行期間11月から3月を感染症予防対策強化月間とし、入居者と支援者双方の健康維持や体調管理について、スタンダードプリコーションを徹底し、健康維持に努めました。高齢化による身体面の変化や精神面の変化は、すべての入居者に関連するため、医療やOT、PTなどによる機能訓練、支援の在り方や心のサポートなどを専門とする臨床心理士など専門職や専門機関との連携を強化し、専門性の高い支援に努めました。

### ●入居者へのサービス向上について

#### (1) 余暇の充実

年間外出として、年に5から6回程度、入居者何名かで遠出やイベント参加を行いました。外出以外にも、IF共有スペースにて、アートプログラム、音楽ライブ開催など大小様々なイベントを企画し、余暇活動の充実に努めました。

#### (2) 地域交流等

地域交流の一環として新宿区社会福祉協議会を通して地域のボランティア、地域関連企業のCSRとのつながりを深

めました。地域の町会や民生委員の方とのつながり、町会総会などの町会活動にも積極的に参加しました。防災訓練は、入居者の安全確保のため、消防計画に基づいて年2回程度避難訓練を実施しました。(勉強会1月17日4名・地域避難訓練9月8日入居者5名、介助者6名)大規模自然災害に備え新たに避難所までの移動シミュレーション、非常階段からの介助用担架を利用した緊急搬送、福祉避難所についての講習会への入居者参加で実施しました。緊急時対応もシミュレーションを実施し、設置しているAEDの活用や緊急時対応で支援者が戸惑いなく、対応できるよう、日常的に様々な事態に想定した準備を心がけました。

地域の特色で、公的施設や福祉施設が集まり、西新宿地域情報交換会を開催しました。

	回数	内容
イベント	10	・アートプログラム・ぽれぽれダンス・家族食事会(花見)・入居者誕生日会 ・企業ボランティア食事会・クリスマス会・韓流アイドルコンサート・節分イベント
年間外出	6	・全体外出・数名に別れてのグループ外出・ご家族同行での外出
地域行事への参加	15	・中央公園盆踊り・幼稚園、小学校との交流会・地区防災訓練・児童館祭り ・打ち水会・コミュニティスポーツ大会・各福祉施設祭り

### (3) 保護者・後見人・通所事業所との連携

成年後見人利用の入居者の後見人とも連携していくと同時に、今後、後見制度の利用を進めていく必要がある入居者に対しても適切に移行できるよう体制を整備しました。ご家族に適切な情報提供、関係機関への円滑な引継ぎのため、支援者の同制度への知識向上に努めました。特定相談事業者等とも密に連携を取り多角的な視点で利用者の支援を重層的に実施しました。

	回数	内容
父母懇談会	11	生活の様子報告・イベント報告・個別相談など

## 6. 事業所「ぽけっと」(地域総括型事業)

事業所「ぽけっと」は3つのユニットで構成しています。

・ユニット①「ぽけっと」・ユニット②「からふる」・ユニット③「ぱれっと」

職員配置:単位(人)

2020年3月31日現在

	管理者 サービス管理責任者 (兼務)	世話人	生活支援員 ( )は常勤換算後の人数	その他の支援者 (他事業との 兼務)
常勤専従		2	2	
常勤兼務	1		2	1
非常勤			23(6.7)	

### ● 第三者評価の受審

事業所ぽけっと(3ユニット)で、第三者評価を実施しました。

#### ユニット① ぽけっと

#### 【運営方針】

入居者一人ひとりのライフスタイルを尊重し、その人らしい暮らしができるように支援します。

- ・ご本人や保護者のニーズに寄り添い、選択肢を広げ、安心・安全な生活ができるよう、信頼される福祉サービスを提供できるよう努めます。
- ・現場で起こった課題に対して、法人内外と情報共有し、問題解決に努めます。
- ・保護者や通所先・専門職と連絡を密にとり、情報共有しながら現状に合った生活環境を整えます。
- ・入居者の年齢・障害の状態に関わりなく、社会の一員として、自立した生活ができるよう支援し、地域交流も積極的に行っていきます。

事業名 : ぼけっと:実施事業 : 共同生活援助(グループホーム):定員 : 6名

所在地 : 東京都新宿区百人町3-3-2

### ユニット② からふる

#### 【運営方針】

入居者が主体性を育み生活がおくれるような支援を目指します。

- ・自分で考え行動できるような環境づくりを行います。
- ・課題に向き合い、取り組めるように支援します。
- ・ご家族や通所先、関連機関、行政、地域の方々との連携を図り生活の質が向上できるように支援します。

事業名 : からふる:実施事業 : 共同生活援助(グループホーム):定員 : 7名

所在地 : 東京都新宿区西新宿4-8-36

### ユニット③ ぱれっと

#### 【運営方針】

入居者一人ひとりが自身の目標に向けてチャレンジできるような支援体制を作りつつ、安心して自立した生活が送れるよう支援していきます。

- ・入居者一人ひとりの生活に合わせて、安心して暮していけるように支援していきます。
- ・入居者一人ひとり、ご家族の興味や取り組みたい事柄に耳を傾け、提供の仕方、実施方法を模索していきます。
- ・入居者が地域社会と接点がある部分は、一緒に参加していけるように関わります。

事業名 : ぱれっと:実施事業 : 共同生活援助(グループホーム):定員 : 6名

所在地 : 東京都新宿区高田馬場3-43-8

#### ●入居者へのサービスの向上について

サービスの質の向上にあたり、下記の事項の強化を目指し実施しました。

- ① 個別支援計画の策定
- ② 職員のスキルアップ
- ③ 区内・法人内グループホームとの情報共有または連携強化
- ④ 関係機関とのつながり
- ⑤ 地域行事へ参加

#### ① 個別支援計画の策定

個別支援計画のモニタリング、計画の見直しを行いました。中年化・高齢化が進み、健康面・体力面の配慮が重要となりました。年齢や体系など健康面に配慮し、様々な取り組みを行いました。通所先や余暇を健やかに活動できるよう、生活拠点としてなるべくストレスのないリラックスした生活が送れるように見直しました。

## ② 職員のスキルアップ

高齢化や障害の重度化により、共同生活において他入居者との関わりや支援方法がより複雑化しているため、研修などの機会を増やし、個々のスキルアップを図り、利用者支援の向上につなげました。職員は、障害理解や法制度についての幅広い知識を吸収し、専門知識や経験を活用し入居者の生活を支えられるように基盤作りに努めました。

## ③ 区内・法人内グループホームとの情報共有または連携強化

法人内のグループホーム支援者が、集うミーティングを月3回開催しました。ここで各ホームでの課題を協議することで、ひとつのホームでは解決できない問題も対応しました。また、障害種別や特性の違う支援を共有することで、臨機応変かつ柔軟な対応ができるように努めました。同一法人内で同じレベルのサービスが提供できるようチームケアの向上に努め、苦情や虐待防止への取り組みなど様々な情報を共有して解決に導けるように連携を強化しました。

## ④ 関係機関とのつながり

入居者家族との情報共有の場とした懇談会を月に1度実施し、個々の生活状況の報告や意見交換を行い、事業運営の理解を深め、ホームに対する入居者、家族の安心感が高まるように努めてきました。

また、懇談会だけでは、足りない日々の情報共有は、連絡帳や電話、FAX、メールを使い、こまめなコミュニケーションを行いました。通所先や他事業所などとの情報交換を随時行い、日頃の入居者の生活や今後の支援活動などの情報を共有し、生活に大きな変化が出ないように継続的な支援の統一に努めてきました。

医療機関や医師や看護師、専門職などとの情報共有に努め、日々の入居者の変化に迅速に対応するための関係づくりを強化しました。また、入居者の健康面などを考慮し、感染症の流行期間である1月から3月を感染症予防対策強化月間とし、法人全体で感染症の予防に努め、入居者と介助者双方の健康維持や体調管理についてスタンダードプリコーションを徹底し、健康維持に努めました。感染症対策では、日々の手洗いうがいを行うとともに、冬季は加湿などに気を配り湿度を保ち感染予防に努めました。日々手洗いをを行い感染防止に努めました。新型コロナウイルスの感染状況をや感染予防について、入居者には理解しやすい表現で状況を説明するとともに、通所時においてマスク装着し感染防止に努めました。

## ⑤ 地域行事への参加

避難訓練、各種イベント等、継続して、入居者とともに様々な場に参加し、交流を図りながら地域の方々とより一層の信頼関係を築いていけるよう努めました。また、社会参加の機会を増やすために地域に働きかけに努めました。具体的には、積極的に法人内グループホーム入居者同士が食事をともにするなどの交流も行い、入居者間の交流を図りました。他法人のグループホームとの連携にも取り組み、中落合あしたホームと共催でカラオケルーム貸し切りのクリスマスパーティを開催し、入居者間・支援者間交流を行うことができました。

### ●危機管理

利用者の高齢化と障害の重度化に伴い、緊急時の迅速な対応や職員の知識と技術の向上のため、常勤職員に対して、上級救急講習を受講させて、上級救命技能認定証の取得に努めました。

### ●避難訓練の実施

<p>ぽけっと</p>	<p>2020年 1月17日:勉強会:緊急時の対応について @消防署より 2020年 3月27日:ホーム内避難情報共有・内容(防災物品、防災食の確認、洗いだし、入居者個人の災害時リュックの中身チェック。)</p>	<p>支援者2名 支援者3名</p>
-------------	--	------------------------

からふる	2020年 1月17日:勉強会:緊急時の対応について @消防署より 2020年 3月26日:ホーム内避難訓練(火災)	支援者3名 入居者7名・支援者2名
ぱれっと	2020年 1月17日:勉強会:緊急時の対応について @消防署より 2020年 3月17日夜間を想定したホーム内避難訓練(火災)	支援者4名 入居者5名・支援者2名

●地域行事の参加とイベント等

ぼけっと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お花見:ハロウィンパーティー・町内会イベント「お菓子の家」に参加</li> <li>・中落合あしたホームとの共催でクリスマスパーティ ※入居者誕生月に誕生会</li> </ul>
からふる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリスマス会・節分・バレンタインでのお菓子作り等季節に応じたイベント</li> <li>・通所先や近隣の祭り・防災イベントへの参加・西新宿情報交換会の参加(支援者のみ)</li> <li>※入居者の誕生月に誕生会を実施</li> </ul>
ぱれっと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6周年記念外食(回転寿司)・ぱれっとクリスマス会・町内会の新年会</li> <li>※入居者誕生月には、誕生会を実施</li> </ul>

## 7. 介護派遣事業所「ルクール」

【運営方針】

地域生活を送る利用者一人ひとりに日常的に必要な障害福祉サービスを継続的に提供し、QOLの向上を図り、心をこめた支援を実現します。

- ・日常生活における生活環境、障害程度にあった必要なサービスを提供し、日々生活力を高めて活きます。
- ・利用者の皆様が、安心して日常生活が送れるよう必要なサービスを関係機関と連携し、提供できるように心がけます。

●事業概要

職員を以下の通りに配置し、事業を実施しました。

※2020年3月末実績

部署	職 種	人数	内訳(人)		
			常勤	非常勤	備考
・居宅介護 ・重度訪問介護 ・移動介護	管理者	1	1	0	すべての職員は、「居宅介護・重度訪問介護」、「移動支援事業」を兼務。
	サービス提供責任者	1	1	0	
	訪問 介護員	介護福祉士	4	0	
		ヘルパー1級	0	0	0
		ヘルパー2級 初任者研修	14	1	14
経理、庶務	1	1	0	経理は、他事業を兼務。	
	合計	21	3	18	

●事業実施内容

1. 事業名:障害福祉サービス「居宅介護・重度訪問介護」、地域生活支援事業「移動支援事業」のサービス提供主体を総称して「ルクール」としています。

2. 実施事業:

(1) 障害福祉サービス「居宅介護・重度訪問介護」(2) 地域生活支援事業「移動支援事業」

身体介護・家事援助・通院介護・移動介護を対象とした障害者に対する居宅介護サービスを提供。

3. 所在地:東京都新宿区西早稲田3丁目13番15号FWビル3階

●サービス提供実績

※2020年度実績集計

事業	利用定員	提供時間
障害福祉サービス 居宅介護・重度訪問介護	身体介護4名(延べ人数48名) 家事援助2名(延べ人数24名) 通院介護7名(延べ人数38名) 重度訪問介護1名(延べ人数11名)	身体介護:4,134.5時間 家事援助:1009.5時間 通院介護:82.5時間 重度訪問介護:49.5時間
地域生活支援事業 移動支援事業	17名(延べ人数133名)	1,343時間